東藝術倶楽部　江戸楽生（笑）会

「上野寛永寺・不忍池」編：参考資料

平成 24 年 3 月 25 日（日）

◎寛永寺とは･･･

天台宗関東総本山の寺院。山号は東叡山（とうえいざん）。東叡山寛永寺円頓院と号する。

・開基（創立者）は徳川家光、開山（初代住職）は**天海**―慈眼大師天海大僧正（じげんだいしてんかいだいそうじょう）―、**本尊は薬師如来**。
・徳川将軍家の祈祷所・菩提寺であり、**徳川歴代将軍 15 人のうち 6 人**が寛永寺に眠る。
・17 世紀半ばからは皇族が歴代住職を務め、日光山、比叡山をも管轄する天台宗の本山として近世には強大な権勢を誇ったが、慶応 4 年（1868 年）の**上野戦争**で主要伽藍を焼失した。

根本中堂

旧寛永寺五重塔（重要文化財）

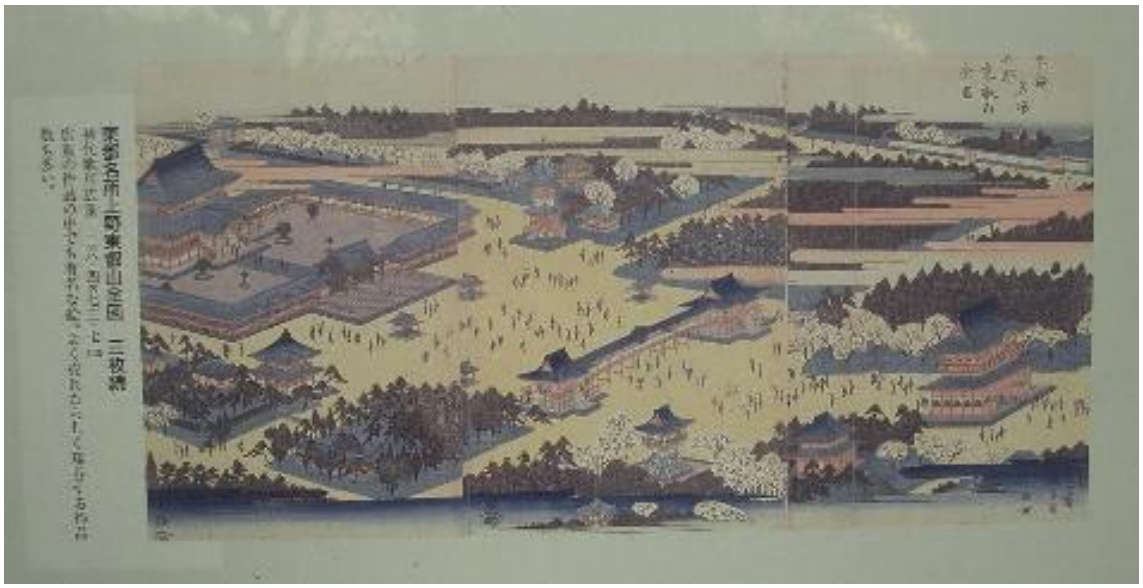
◎寛永寺の創建と伽藍整備

・江戸にあった徳川家の菩提寺のうち、増上寺は中世から存在した寺院だが、寛永寺は天海を開山とし、徳川家により新たに建立された寺院。徳川家康・秀忠・家光の 3 代の将軍が帰依していた天台宗の僧・天海は、江戸に天台宗の拠点となる大寺院を造営したいと考えていた。それを知った秀忠は元和 8 年（1622 年）、現在の上野公園の地を天海に与えた。当時この地には伊勢津藩主・藤堂高虎、弘前藩主・津軽信枚、越後村上藩主・堀直寄の 3 大名の下屋敷があったが、それらを収公して寺地にあてた。

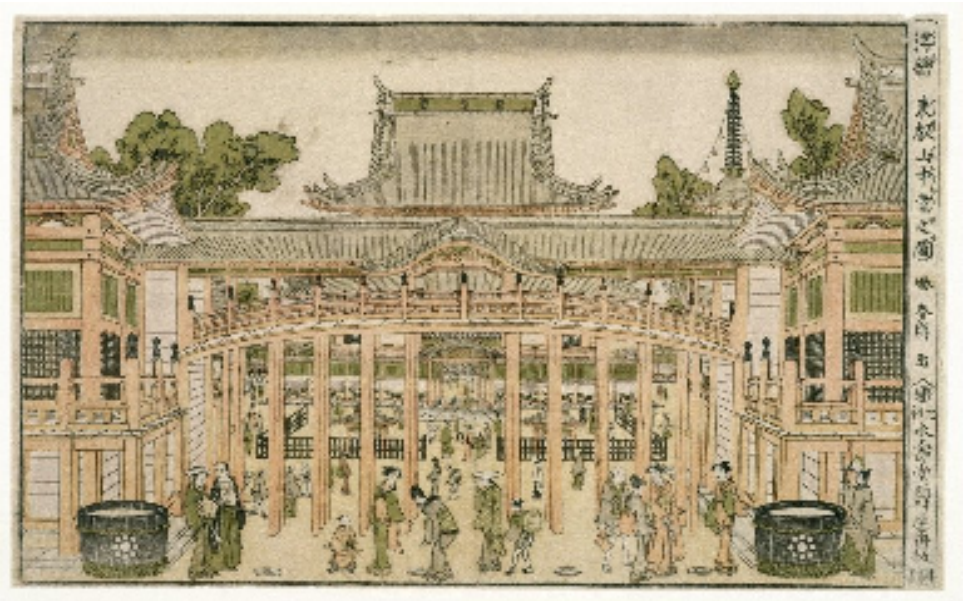
・秀忠の隠居後、寛永 2 年（1625 年）、3 代将軍徳川家光の時に今の東京国立博物館の敷地に本坊（貫主の住坊）が建立された。この年が寛永寺の創立年とされている。当時の年号をとって寺号を「寛永寺」とし、京の都の鬼門（北東）を守る比叡山に対し

て、「東の比叡山」という意味で山号を「東叡山」とした。

・その後、寛永 4 年（1627 年）には法華堂、常行堂、多宝塔、輪蔵、東照宮などが、寛永 8 年（1631 年）には清水観音堂、五重塔などが建立されたが、これらの堂宇の大部分は幕末の上野戦争で失われた。このようにして徐々に伽藍の整備が進んだが、寺の中心になる堂である**根本中堂**（こんぽんちゅうどう）が落慶したのは開創から 70 年以上経った元禄 11 年（1698 年）、5 代将軍徳川綱吉の時だった。



初代歌川広重、東都名所上野東叡山全図（三枚続）

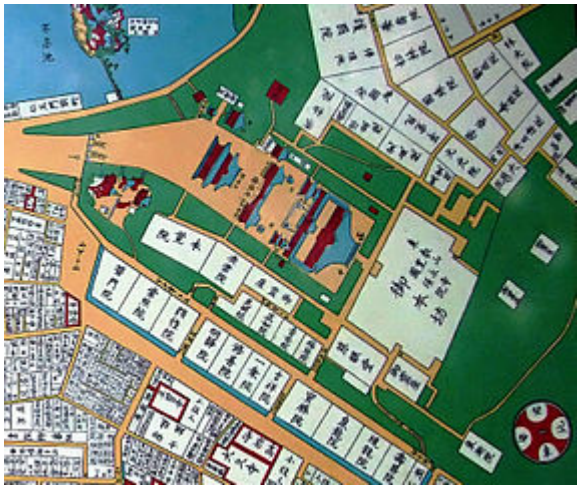


葛飾北斎筆 東叡山中堂之図

◎徳川家と寛永寺

・近世を通じ、寛永寺は徳川将軍家はもとより諸大名の帰依を受け、大いに栄えた。ただし、創建当初の寛永寺は徳川家の祈祷寺ではあったが、菩提寺という位置づけではなかった。徳川家の菩提寺は 2 代将軍秀忠の眠る、芝の増上寺（浄土宗寺院）だったのである。しかし 3 代将軍家光は天海に大いに帰依し、自分の葬儀は寛永寺に行わせ、遺骸は家康の廟がある日光へ移すようにと遺言した。

・その後、4 代家綱、5 代綱吉の廟は上野に営まれ、寛永寺は増上寺とともに徳川家の菩提寺となった。当然、増上寺側からは反発があったが、6 代将軍家宣の廟が増上寺に造営されて以降、歴代将軍の墓所は寛永寺と増上寺に交替で造営することが慣例となり、幕末まで続いた。



幕末の寛永寺付近の地図（東都下谷絵図より）

◎寛永寺と輪王寺宮

・寛永 20 年（1643 年）、天海が没した後、弟子の毘沙門堂門跡・公海が 2 世貫主として入山する。その後を継いで 3 世貫主となったのが後水尾天皇第 3 皇子の守澄法親王（しゅちょうほっしんのう）。法親王は承応 3 年（1654 年）、寛永寺貫主となり、日光山主を兼ね、翌明暦元年（1655 年）には天台座主を兼ねることとなった。

・以後、幕末の 15 世公現入道親王（北白川宮能久親王）に至るまで、皇子または天皇の猶子が寛永寺の貫主を務めた。貫主は「輪王寺宮」と尊称され、水戸・尾張・紀州の徳川御三家と並ぶ格式と絶大な宗教的権威をもっていた。

・歴代輪王寺宮は、一部例外もあるが、原則として天台座主を兼務し、東叡山・日光山・

比叡山の 3 山を管掌することから「三山管領宮」とも呼ばれた。東国に皇族を常駐させることで、西国で天皇家を戴いて倒幕勢力が決起した際には、関東では輪王寺宮を「天皇」として擁立できる。気学における四神相応の土地相とし、徳川家を一方的な朝敵とさせない為の安全装置だったという説もある。

・

輪王寺（日光）・三仏堂

◎現存する伽藍

・**本堂（根本中堂）**― 東京芸術大学音楽学部の裏手にある。上野公園内の清水堂、弁天堂などのにぎわいに比し、本堂周辺は訪れる人もまばら。但し現在の堂は、寛永寺の子院・大慈院のあった敷地に川越喜多院の本地堂を明治 12 年（1879 年）に移築したもので、寛永寺本来の建物ではない。

・**書院**－本堂裏手にあり、徳川慶喜が水戸退去の前に 2 か月ほど蟄居（ちっきょ）していた部屋（葵の間、あるいは蟄居の間）が保存されている（非公開）。

・**旧本坊表門（重要文化財）**－通称黒門。東京国立博物館東側の輪王寺にある。寛永年間の建造物で、もとは、現在の東京国立博物館正門の位置にあった。

・**旧寛永寺五重塔（重要文化財）**－寛永 8 年（1631 年）建立の初代の塔が寛永 16 年（1639 年）に焼失した後、ただちに再建された。現在、塔は上野動物園の敷地内にあり、所有者は東京都になっている（名称に「旧」とつくのはそのため）。塔の初重に安置されていた釈迦如来・薬師如来・弥勒菩薩・阿弥陀如来の四仏は、東京国立

博物館に寄託されている。

・**東照宮（重要文化財）** ― 正式名称は東照宮だが、他の東照宮との区別のために鎮座地名をつけて上野東照宮と呼ばれる。徳川家康（東照大権現）・吉宗・慶喜を祀る。寛永 4 年（1627 年）、藤堂高虎が創建した。社伝によれば、元和 2 年（1616 年）、危篤の家康から自分の魂が末永く鎮まる所を作ってほしいと高虎と天海に遺言したという。現在の社殿は慶安 4 年（1651 年）に三代家光が改築したもの。社殿は 2009 年 1 月から 2013 年まで修復工事が行われている。

上野東照宮

・**清水観音堂（重要文化財）** ― 上野公園内、西郷隆盛銅像近くにあり、千手観音を祀る。寛永 8 年（1631 年）の建築。規模は小さいとはいえ、京都の清水寺本堂と同様の懸造（かけづくり）建築。江戸三十三箇所観音霊場の第 6 番札所。

清水観音堂（重要文化財）

・**弁天堂**－上野公園南側にある不忍池の中之島に天海が琵琶湖の竹生島の宝厳寺の弁才天を勧請して建立した。当初は橋がなく、舟で参詣していた。当初の建物は入母屋造であったが昭和 20 年 3 月 10 日の東京大空襲で焼失し、同 33 年に鉄筋コンクリート造の八角堂として再建された。

江戸名所

弁天堂

上野花見

至 日暮里駅
至 寛永寺
谷中霊園
(慶喜公墓所)
上野桜木
バス停
谷中バス停
寛永寺幼稚園
寛永寺
(根本中堂)
光明殿
寛永寺霊園
歴代将軍
御霊廟
歴代将軍
御霊廟
北口
JR鶯谷駅
南口
言問通り
至 浅草
至 根津
国立教育
政策研究所
国際こども
図書館
東京芸大
東京芸大
釈迦堂
(大黒天)
東京国立博物館
開山堂
(円大師)
輪王殿
東京大学
総合研究博物館
旧本坊表門
奏楽堂
上野動物園
東京都
美術館
上野東照宮
(ぼたん苑)
旧寛永寺五重塔
梅川亭
精養軒
上野大仏
上野動物園
時鐘堂
不忍池
五條天神社
野球場
摺鉢山
東京
文化会館
日本学士院
国立科学
博物館
国立西洋
美術館
公園口
JR上野駅
パンダ橋
天海僧正
毛髪塔
清水
観音堂
彰義隊墓所
不忍池
弁天堂
西郷像
中央通り
至 浅草
至 秋葉原
至 御徒町駅
下町風俗
資料館
不忍通り
北
お手洗
駐車場
一方通行
交番

上野寛永寺周辺地図

八橋検校（やつはし けんぎょう）

江戸時代前期の芸術家（音楽家＝箏曲家）で、検校を勤めた。幼少より目が不自由であったため、「当道座」（目が見えない人達による組織。検校・別当・勾当・座頭などの官位名がある）に編入。名は城秀。慶長 19 年（1614 年）～ 貞享 2 年（1685 年）。生国は、山田松黒が安永 8 年（1779 年）に記した『箏曲大意抄（そうきょくたいいしょう）』より、陸奥国磐城（現・福島県いわき市）が定説。

寛永年間（1624-1644 年〉の初め頃、摂津で城秀と称して三味線の分野で活躍した。その後、江戸にくだり、筑紫善導寺の僧・法水に師事して筑紫流箏曲を学んだ。この箏曲を基に現在の日本の箏の基礎を作り上げた。独奏楽器としての楽器や奏法の改良、段物などの楽式の定型化など、箏曲の発展に努めた。代表作に組歌の『梅が枝（うめがえ）』、『菜蕗（ふき）』、『心尽し』、『雲井の曲（くもいのきょく）』などがあり、また、段ものの『六段の調』、『乱（みだれ）』（乱輪舌［みだれ りんぜつ］）、『八段の調』も八橋の作と伝えられている。その芸術は高く評価され、磐城平藩専属の音楽家として五人扶持で召し抱えられたこともある。胡弓、三味線の名手でもあり、胡弓の弓の改良も行っている。生田流、山田流などの箏曲の祖。

箏

八橋検校

八橋検校の死後、その業績を偲んで、箏の形を模した堅焼き煎餅が配られたといわれ、これが京の銘菓「八ツ橋」の始まりである。

弁天堂の八橋検校顕彰碑は、八橋検校の生誕 350 年を記念して日本三曲協会が建立したもの。碑は３面から成り、中央部に「八橋検校顕彰碑」の文字が大書され、右には八橋の伝記「八橋検校史伝」が、左には八橋と箏曲の関わりを記した「頌辞」が刻まれている。